

持続的生産強化対策事業のうち令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業に関する事業評価票

都道府県名	事業実施主体名	対象作物・畜種名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容		成果目標の達成状況			評価機関名	中国四国農政局
				目標値	差	基準年年度	目標年令和6年度	達成率	具体的な取組内容	
岡山県	岡山県花き消費拡大実行委員会	りんどう	2021年度	収量		令和元年	令和元年	119.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質化生産技術等の導入実証 ・消費拡大プロモーション活動 ・各種マニュアル等の作成 	農林水産省生産局、政策統括官、地方農政局(北海道農政事務所、内閣府沖縄総合事務局)の評価所見 活動区域におけるスイートピー新品種の生産数量は、収量性の低さからスイートピー新品種を導入しなかったため、目標未達となった。 今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。 なお、りんどうの収量、作付面積、消費金額及びスイートピーの消費金額の目標については、目標を達成した。
				18,000本/10a	1,088本/10a	16,912本/10a	18,211本/10a	達成		
				作付面積		令和2年	45.6a	656.9%		
		27.5a		3.3a	24.25a		達成			
		消費金額			令和元年	29,097,303円	106.9%			
29,000,000円	1,397,776円	27,602,224円		達成						
スイートピー	生産数量		令和3年	0本	-11.2%	未達成				
	8,000本	7,200本	800本							
消費金額		令和元年	28,676,010円	702.9%	達成					
22,200,000円	1,074,101円	21,125,899円								
広島県	広島県花きイノベーション事業推進協議会	きく	2021年度	収量		令和元年	令和元年	0.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・花き関係者の連携 ・高品質化生産技術等の導入実証 ・消費拡大プロモーション活動 ・新たな販売方法の実証 ・各種マニュアル等の作成 	収量に関しては、根拠となる花き生産出荷統計の全国調査実施年が作付面積調査が3年、収穫量調査が6年ごとのため、直近の実績値が基準値と同一となり、目標未達。なお、令和6年度の産地の状況としては、夏季の高温により花き(きく)の収穫量が減少している。 作付面積に関しても、根拠となる花き生産出荷統計の作付面積調査が3年ごとのため、直近の実績値として令和3年のものを使用。産地の状況としては、コロナ禍を機に需要動向が変化し、これを契機に生産を諦める者が増え、また生産経費の高騰及び夏季の高温の影響も加わり、栽培面積が減少し目標未達となっている。 販売数量については、夏の高温により生産量が減少したため目標値に達しなかった。 今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
				26,601本/10a	1,267本/10a	25,334本/10a	25,334本/10a	未達成		
				作付面積		令和元年	5,420a	-96.7%		
				6,600a	600a	6,000a				
販売数量		H30～R2年の3年平均	4,306千本	-404.5%	未達成					
5,673千本	271千本	5,402千本								
山口県	山口県花卉園芸推進協議会	りんどう	2021年度	販売業者の取扱数量		H27～R元年の5中3平均	183,332本	-204.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・消費拡大プロモーション活動 ・検討会の開催 ・成果の普及活動 	リンどう生産者の高齢化等による離農が進み、生産量が減少したため目標未達となった。 今後、目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
				214,462本	10,213本	204,249本				
香川県	花の里かがわ推進委員会	輪ギク	2021年度	収量		H27～R元年の5中3平均	2,868本/a	-146.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質化生産技術等の導入実証 ・消費拡大プロモーション活動 ・生産者と実需者の連携促進 ・各種マニュアル等の作成 ・実証結果の調査・分析 	輪ギクについて、夏場の高温による病害虫の発生や生育不良のため収量が減少し目標未達となった。 マーガレットについて、定植時期が高温で推移したことにより、花芽が飛び、収穫開始が大幅に遅れたため目標未達となった。 ラナンキュラスについて、定植時期の高温により活着不良が起こり、収量が減少し目標未達となった。 輪ギクについて、H28年の指標作成時は、苗を育苗し、3年に1度、穂を購入し更新するのが主流であったが、R3年時は、購入穂を利用しているため、種苗費が増加、また単価上昇に伴う粗収益増加により販売手数料が増えたことが要因となり、経営コスト削減の目標が未達となった。 マーガレットについて、H29年度より周年栽培ほ場の作付回数を増やしたことで、延べ面積が増加し、10aあたりの農機具の償却費が減ったが、農業資材費を削減できなかったため、目標未達となった。 実証結果を産地に還元することで作付面積が増加し、目標達成。 物価高に伴い花き購入頻度が減少しているため、目標未達となった。 未達成の目標については、今後目標達成に向けた改善計画を策定するよう指導する。
		3,250本/a		155本/a	3,095本/a					
		マーガレット		収量		H27～R元年の5中3平均	4,099本/a	-184.6%		
		4,742本/a		226本/a	4,516本/a					
		ラナンキュラス		収量		H27～R元年の5中3平均	7,327本/a	74.5%		
		7,417本/a		354本/a	7,063本/a					
		輪ギク		生産コスト		令和3年度版	-171.3%			
		1,639,000円		-87,000円	1,726,000円					
マーガレット	生産コスト		令和3年度版	66.9%						
1,618,800円	-85,200千円	1,704,000円								
ラナンキュラス	作付面積		H27～R元年の5中3平均	275a	323.8%					
228a	21a	207a								
全般	消費金額		H27～R元年の5中3平均	9,196円	-327.9%					
11,549円	550円	10,999円								
高知県	高知県園芸品販売拡大協議会	グロリオサ	2021年度	労働時間		平成24年	1,218h/10a	0.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・低コスト・省力生産技術等の導入実証 ・輸出にも対応した産地形成の実証 ・消費拡大プロモーション活動 ・花きの活用促進のための花育体験、園芸体験 	労働時間に関して、産地ではミカンキイロアザミウマの化学農業に頼らない防除技術の普及が進まず目標未達。労働時間の多い「誘引」や「収穫」時間削減のための作業改善を検討している。今後、目標達成のための改善計画作成を指導する。 ユリの収量に関して、ユリ球根の高騰等により計画的な作付けが困難となり目標未達となった。 今後、目標達成のための改善計画作成を指導する。 活動区域における花きの販売金額については、取組が県産花きの認知度向上や日常生活での需要喚起につながり目標達成した。
		1,157h/10a		-61h/10a	1,218h/10a					
		収量			令和2年	12,709千本/10a	-308.8%			
		15,783千本/10a		752千本/10a	15,031千本/10a					
販売額		H27～R1年の5中3平均	180,998千円	2613.9%						
82,374千円	3,923千円	78,451千円								